

第 12 回 I O A 世界大会参加報告

1、今大会の意義

I O A にとって今大会の重要性は、世界大会の転換点に開かれたものとして、今後の戦略を立てることにありました。3年に一度の世界大会が 1997 年のカルガリー大会（450 人）を頂点に参加者が激減し、主たるスポンサー企業の関心が薄れてきた現状を深刻に受け止め、後述するように I O A の 3 ヶ年事業計画と所要経費見積りの企業への提出と支援要請、及び「世界大会」の見直しが行われました。3 年前のポルト大会から顕著ですが、今回も一般のオストメイトの参加は極めて少なく、ほとんどが各国の役員で、日本代表団は例外的な存在でした。大会までに正式の世界大会誘致立候補がなかったし、これまでのような様々なセッションやイベントを組み込んだ形の大がかりな世界大会は、憲章改正により今後は開かれなくなったのですが、三日目の午前に行われた「I O A 世界大会の将来」に関する議論では、アルゼンチン、インドネシアや伊の代表が次回のホスト協会に名乗りをあげました。マレーシア代表からは、タイでの大会がキャンセルされたので次回は是非アジアでとの意見も出されました。決められた手続きで事前に申し出がなかったし、憲章改正で世界大会の方向が変わったので次回の開催方法と場所は、執行委員会での今後の検討にゆだねられました。そのため、執行委員会の下に作業部会を設けることになりました。

私は、世界のオストメイトが集まる機会は重要で、一般の会員も多数参加して親交を深め楽しめるような内容のものは必要だと思います。作業部会の今後の議論にも参画していきたいと思います。

2、I O A 執行委員会 (Executive Committee) 会合

高石だけ一足早く 8 月 3 日の夜に現地入りし、5 日から 8 日まで開かれたこの会合に、A O A 会長カルドサ氏の代理として参加しました。憲章上、執行委員会のメンバーは、会長、副会長、財務役員及び 5 つの地域（アジア、南太平洋、欧州、北米、中南米）協会会長の計 8 名で構成されています。

会議は、事務的な報告や大会の運営確認などのほかに、最も力を注いだのが、スポンサー企業から求められていた 3 ヶ年（2008 - 2010）の活動戦略（Strategic Plan）とそれに要する経費見積もりの作成でした。大会終了後直ちに主要スポンサーに新会長から送付されましたが、3 年間の経費は 367,000 米ドルと見積もられました。

3、大会前夜

空港まで日本からの皆さんを迎えに行きました。プエルトリコ協会が委託しているタクシー会社の人と、出口で待ちながら他の国からの参加者の案内もする羽目になりましたが、日本の皆さんが無事に元気で到着したのでホッとしました。J O A 神戸大会に松葉杖で現れて皆をびっくりさせた進藤教授は、奥様に伴われて杖をついてお元気な姿を見せられる。大会会場は、島の東部の町ファハルドにある海岸に近いリゾートホテルで、空港から 50 分ほど。バンに乗って到着したのが夜の 9 時ごろ。前夜祭のスティール・バンドのにぎやかな音が聞こえるが、皆さんお疲れで早々に部屋でお休み。今夜も「コキュ、コキュ」という泣き声がかまびすしい。これは、姿はほとん

ど見られないがこの島名物の小さいカエル、その名は「コキ」。私もそうだったが知らない人は鳥だと思っそうです。

4、大会第1日

1) 地域協会会議

午前中はまず、上記5地域ごとに会合を開き、AOAは日本のほかにマレーシア(ペナン支部のアブドゥル氏)、インドネシア(会長のケマラ女史)、インド(ムンバイ協会のブッチ博士)、モンゴルの代表が参加。モンゴル代表は、昨年JOA訪問団がお世話になったウランバートルの国立がんセンター医師でモンゴル協会事務局長のエンフさん。再会を喜ぶ。高石が議長を勤め、各国の最近のニュースを報告しあい、日本は来年のAOA大会を告知し、IOAの役員選挙では会長にはニュージーランド協会会長バリー・モーガン氏を、副会長にはインドのハリケッシュ・ブッチ氏を全員で支持することを決定。日本の皆さんはオブザーバーで出席してくれました。

2) 開会式

アメリカ国歌演奏に合わせて米国とプエルトリコの国旗入場の後、各国ブラカードの入場です。日本は黒坂さんと秋田さんの姉妹が代表で行進。ディールウェン・ブラッケン会長、ホスト協会の会長マルタ・ヴェレス・デ・ニエヴェス女史、地元市長、ETの世界組織(WCET)副会長スーザン・ステルトン女史の挨拶がありました。ブラッケン会長からは、今大会の参加協会は34の国と地域で、参加登録者数は147名だと報告されました。続いてアーチャー・ヴィンスキー賞とプロフェッショナル・サービス賞の贈呈が行われ、前者は、永らくIOA財務役員を務め、我が協会にもなじみのニュージーランドのジョン・オニール氏に与えられました。1966年にストーマ手術を受けた病院の看護師だった奥様と、3年前のポルト大会に続いてお元気な姿をみせてくださいました。

3) ワールド・カウンシル(World Council)会議

これがIOA大会の中心をなすもので、IOAの総会にあたります。会長、副会長などの活動報告、財務報告、憲章改正、役員選挙などが行われます。

最初に参加協会の投票数が確認されます。会員数の多寡によって決まっていますが、今回は34協会で合計107票。日本の7票と委任状を提出した香港の4票を含めてアジア5協会の票数は15票。ネパール(欠席)とモンゴルの協会が、準会員から正式会員になりました。

ブラッケン会長の報告では、イタリアのモデナにあるライオンズクラブ提供による資金で、2000年以来、発展途上国の看護師や医師の教育訓練が継続されていることが強調されました。インドネシア、パキスタン、イラン、スリランカ、ヴェトナム、バングラデシュ、ネパール、モンゴル、ミャンマー、ラオスなどのアジア諸国が対象になりました。近く南米にも拡大する計画だそうです。

(憲章改正)

初日の午後と最終日に行われた議論で、執行委員会と加盟協会から事前に提案されていた12項目の改正点のうち、いくつかの重要な改正が認められ、または

否決されました。承認された事項では、（中国やインドなどの大国を想定して）1ヶ国に複数の準会員加盟を認めること 世界大会（World Congress）の規定を削除することなどがありました。否決された事項では、 地域協会が加盟を認めないとき、準会員候補の協会はIOAに訴えることができること 会長と副会長の任期は1期3年限りであったが、2期目の再選も可能とすること 地域協会の大会をIOAの地域大会として上記承認事項 の代替とすること 2名の監事を1名にすることなど。JOAの代表は、初めて今回大会で憲章改正について積極的に意見を述べました。特に、来年東京で開催のAOA大会が、「世界大会」とのジョイントとなることを恐れていたからです。幸いその心配はなくなりましたが、「今大会の意義」で述べたように、今後の方向を注目したいと思います。

5、第2日

- 1) スポンサー企業の発表：ホリスター、コロプラス、コンバテックの3社の活動紹介。加えて、コロプラスとの代表は、デンマークにおけるストーマ皮膚ケアについて講演。
- 2) 昨年10月の世界オストミー・デーの報告
- 3) 役員候補者の討論会
- 4) ワークショップ： WCE Tの活動紹介 ライオンズクラブ支援のストーマ・ケア活動報告 進藤教授の「ストーマ手術後の生活」講演 オストメイト・ビジターのガイドライン（コンバテックの支援で、進藤教授などにより作成されたもの）発表。

6、第3日

午前中は、「世界大会の今後」、「IOAのコミュニケーション手段」、「ウェブ上の意見交換フォーラム設置」、「財政の課題」について意見交換をしました。

7、第4日

午前中は上記の憲章改正を討議し、午後はいよいよ役員選挙が行われ、立候補者の中から、新会長にはチェコの協会長（IOA副会長）のウラジミール・クラインバクター氏が5票差でニュージーランドのバリー氏を破って選ばれました。

副会長にはうれしいことに我々にも親しいインドのブチ

博士が、15票差で欧州協会の会長を破って選ばれました。財務役員には現職のジーン・ザプフ（カナダの会計士出身で、奥様がオストメイト）1人のみの立候補でしたので問題なく再選されました。



8、20/40 の活動

若いオストメイトの組織、20/40 フォーカス代表のサラ・メールさんを中心に、期間中若手だけのセッションが、並行して行われていました。彼女はA O Aなどの地域大会にも若手の参加を奨励してほしいと訴えていました。

9、スペイン語でのセッション

地元や中南米からの参加者には、スペイン語で行う、あるいはマルタさんが通訳するセッションがところどころで設けられました。

10、お楽しみイベント

- 1) 歓迎晩餐会 (第 1 日夜): 冒頭、高石は現地で調達したチェロを演奏。96 歳で没するまでの生涯の最後の期間をプエルトリコで過ごした、高名なチェロ奏者で、同時に後半生を人類の自由と平和の戦いに捧げた巨匠、パブロ・カザルスを偲んで、彼の作曲した「鳥の歌」を演奏したのですが、皆さんに喜ばれました。世界オストミー・デーで目立った活動のあった協会が表彰され、またホリスターが後援した写真コンテストの受賞者とその作品が紹介されました。食後は輪になって「サルサ」の踊り。
- 2) ゴルフのパッティング競技とオークション (第 2 日夜): 日本の参加者はパッティング競技には参加しませんでした。オークションでは大いに貢献し、持参した人形、凧、羽子板、団扇、扇子、急須などが好評で、I O A は約 1600 ドルの収益を上げました。
- 3) 市内観光と夕食会 (第 3 日午後から夜): 首都サンファン の旧市街へのバス旅行。スペイン人が作った砦や知事公舎を訪問し、古い町並みを散策してお土産を買いました。夕食は市内のレストランで、スペイン料理。お酒は各自支払い。
- 4) 交流活動 (第 2 日): 事前に「日本デスク」をお願いしたのですが、場所がないと断られていました。仕方なく、休憩時にゲリラ的に会議場の一角に突然机を運んで、日本から持参したお土産を広げたところ、瞬間になくなってしまいました。来年の A O A 大会案内や実施中の「世界のオストメイト実態調査」のアンケートも配って、記入をお願いしました。

終わりに

私にとっては、カルガリー (1997) とポルト (2004) に続く 3 回目の世界大会参加でしたが、顔見知りも増え、I O A の活動もおおよそ頭に入力できるようになりました。しかし、地球上でも辺鄙な場所の辺鄙なホテルに閉じ込められた 10 日間で、ちょっと遊びに出かけるというわけにはいかなかったのが、くたびれました。私は大会終了の翌日午前にかかれた新執行委員会に出ましたので、ご一緒できませんでしたが、日本代表団の皆さんは、帰途にはニューヨークに一泊され、大都会でエンジョイされたことでしょう。全員無事に帰国できたことを喜びましょう。お疲れ様でした。(以上)

文責 高石道明



12th IOA 世界大会 参加紀行





24時間の長旅でした サンファン空港にて



Fajardo Inn に到着 メキシコ料理で遅い夕食



第1日 AOA Meeting



IOA 会長とアジアからの参加者



開会式 この後各国入場



日本代表団も入場





IOA 会長挨拶



AOPR 会長挨拶



日本からの参加者



World Council Meeting



World Council Meeting 採決集計中



Welcome Dinner



Welcome Dinner 日本代表団



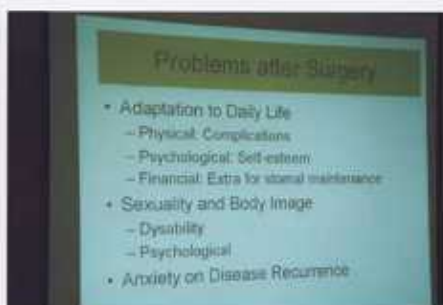
アトラクション



だんだん盛り上が



全員参加



ワークショップ 進藤教授講演テーマ



オストミービジターガイドラインの発表



講演中の進藤教授



体験発表する高石氏



OVガイドラインの発表(進藤教授)



Dr.V.Kleinwachter 新会長



Dr.H.Buch 新副会長



新しい執行部(左端は財務 Mr.G.Zapf 担当)



新会長就任挨拶



Closing Banquet



Attraction



ブッチ新 IOA 副会長を囲んでアジア代表团



Piazza de Colon にて



激しい動きのサルサ



観光地 SUN CRISTOBAL CASTLE



プエルトリコの俳優ご苦労様



CLOSING BAQUET にて